

SMILEBOOK Vol.12

お客さまとメーカーさまの、
笑顔が生まれる現場をレポートしました。
ぜひ、ご覧ください。

進化の目撃者たち。

生活インフラの現在のために、企業は何を変え、何を守ってきたのか？

● 第1章
変化を糧に、
鍛えられた現場力、
製品力、生産力。

● 第2章
開拓・開発の一步先、
技術が
いかに時代に
応えたか。

● 第3章
住まいと農業、
その進化の
最前線へ。

セディアグループ

水から未来を考える。
自然の学びを未来へ活かす。

セディア財団は
スマイルプロジェクトを
応援しています。



● 全国小学生かべ新聞コンテスト

「わたしたちのくらしと水」をテーマに、全国の小学生を対象にしたかべ新聞コンテストを開催しています。回を重ねるごとに応募数も増え、第3回のコンテストでは全国から5,022作品もの応募をいただきました。



● 高校生が描く明日の農業コンテスト

昨年、全国の農業高校に通う生徒を対象にした新しい活動がスタートしました。「わたしはこんな方法で農業を元気にする」をテーマに、高校生の若い感性と発想でまとめたレポートを募集しています。



● 野外力検定

子どもたちが普段生活する中では経験できないこと、生きていく上で必要とされる技術を学び「生きる力」を身につけることを目的とした「野外力検定」。その開催や主任検定員の養成などのバックアップも行っています。



働く人の笑顔。それに支えられて、日々平穏に暮らす人たちの笑顔。安心な世の中だからこそ、笑顔が生まれる。日々の仕事、さまざまな活動を通じて、笑顔の輪をもっと大きく広げていきます。

水・住まい・農業の明日へ。そこにセディアシステム
渡辺パイプ株式会社

〒104-0045 東京都中央区築地5-6-10
浜離宮パークサイドプレイス6F
TEL.03-3549-3111 FAX.03-5565-6374
<http://www.sedia-system.co.jp>



もっと笑顔を広げよう 「セディアスマイルプロジェクト」 全力で推進中。

セディアグループの周りには、お客さま、メーカーさまなど、笑顔を広げる取り組みをされている方がたくさんいらっしゃいます。「セディアスマイルプロジェクト」は、そんな笑顔をもっと広げよう、もっと伝えようという思いからスタート。その活動のひとつが「スマイルブック」。お客さまとメーカーさまのビジネスの今とこれからをレポートするからCSR。笑顔を広げる数々の取り組みを紹介するからアクティブ。それがセディアグループのCSRアクティブレポート「スマイルブック」です。日本中で活躍されているお客さまやメーカーさまの取り組みはさまざまです。しかしどなたも真摯に、ひたむきに、雨の日も、風の日も、生活インフラ構築のために打ち込んでいます。その日々の確かな仕事の積み重ねが、日本が世界に誇る生活インフラの向上につながり、そこから暮らしの笑顔が広がっているのですね。笑顔こそ、答えです。人を笑顔にする取り組みに間違いはありません。セディアグループが「スマイル」という言葉を大切にしている理由も、生活インフラの現在を笑顔で伝えようとする想いもそこにあります。今回も笑顔が生まれる現場を取材しました。ぜひ、ご覧ください。



◆セディアCSRアクティブレポート 2018

「スマイルブック」は発刊12年。「セディアスマイルプロジェクト」の活動を毎年報告しています。



SMILEBOOK

Vol.12

スマイルブックは、

現場の最前線で、

時代に応え、次代へ挑む方々を取材。

その笑顔が見つめるものは、

生活インフラのさらなる進化でした。

進化の 目撃者たち。

毎年、多くの企業が生まれています。

同時に、人知れず消えていく企業も少なくありません。

めまぐるしく変化を重ねる時代に応じて、生活インフラに貢献しつづけるには

何を変え、何を守らなくてはならないのでしょうか？

時代の厳しい試練を乗り越えて、確かな足取りで未来へ向かうまでには、

どんな想いや取り組みがあったのでしょうか？

今年の「スマイルブック」では、長年にわたって

生活インフラの向上に取り組んできたみなさまの

時代とともに進化させてきたことや、時代を超えて守ってきたこと、

次代への展望などをお聞きしました。さっそくご案内してまいりましょう。

CONTENTS

今回、ご登場いただいた企業や農家のみなさまです。

変化を糧に、
鍛えられた現場力、製品力、生産力。

第1章

| | | |
|-----|-------------|------|
| 146 | 株式会社小池設備 | P.08 |
| 147 | 愛知時計電機株式会社 | P.10 |
| 148 | 株式会社柴田電機製作所 | P.12 |
| 149 | 吉田菊園 | P.14 |

開拓・開発の一步先、
技術がいかに
時代に応えたか。

第2章

| | | |
|-----|--------------|------|
| 150 | 株式会社ニカク工務店 | P.18 |
| 151 | 株式会社風間建設工業所 | P.20 |
| 152 | 有限会社石川園芸もりおか | P.22 |
| 153 | JFEスチール株式会社 | P.24 |

住まいと農業、
その進化の
最前線へ。

第3章

| | | |
|-----|----------------|------|
| 154 | タカラスタダード株式会社 | P.28 |
| 155 | 株式会社小川商店 | P.30 |
| 156 | 株式会社高原設備工務店 | P.32 |
| 157 | 株式会社VERY BERRY | P.34 |

| | | |
|---|--------------|------|
| ● | セディアCSRストーリー | P.36 |
|---|--------------|------|

第1章

SEDIA SMILEBOOK
The 1st Chapter

変化を糧に、 鍛えられた現場力、 製品力、生産力。

チェンジを、チャンスに――。

そのやわらかな思考としなやかな対応力で時代を乗り越えた人や企業。

その鍛えられた現場力と製品力と生産力こそ、
次の時代の生活インフラを支える原動力になる。



株式会社小池設備



愛知時計電機株式会社



株式会社柴田電機製作所



吉田菊園



コーチングで、 V字回復を。

146

SEDIA SMILE STORY

株式会社小池設備

関心事を引き出すコーチングを取り入れて、社員数も売り上げも伸ばす。

小池設備は創業してから半世紀弱。地元密着型のスタイルで周辺の住宅の3軒に2軒はお客さまだという。その小池設備には営業という肩書きを持つ社員はいない。しかし遠方の町田あたりからも口コミによって依頼が寄せられる。秘訣は技術力なのだろうか？スピードなのか？代表取締役の小池重憲さんは首を振りながらこう言った。「それらも重要ですが、我が社が一番大切にしているのは、お客さまの関心のあることに関心を寄せることです」

価格が気になる人、仕上がりが気になる人、受け答えが気になる人など、相手によって関心事は異なると小池さんは言う。それを察知して対応するそうだ。「この考えは2代目を継いでから社員に教わったようなものです」と小池さんは笑う。

実は今から17年ほど前に、小池さんの父が心不全で急逝された。

そして自分の代になると社員が次々に辞めていった。幹部社員から辞めていったのは小池さんにも、企業にも痛手となった。社員数と比例して売り上げも落ちていく。「眠れぬ夜が続きました。これまでと同じことではこの状況乗り越えることはできない、何かを変えなければならなかったのです。その何かは私の意識です」と小池さんは当時を振り返って言う。

小池さんがコーチングを学び始めたのはそれからのことだった。人はそれぞれ技能も思いも価値観も違う。その違いを認めた上で活かす指導を身につける努力をした。「型にはめるのではなく、社員の関心事を引き出した上で、その個性を活かす道を探すのです。するとね、社員の動きがまるで違ってきます。お客さまも同じだと思います。私どもの売りはこれと押しつけるより、相手の関心事に応える術を探して提供するのです」

そして現在、半分に減った社員は元以上に増え、売り上げもあがった。



株式会社小池設備

代表取締役

小池 重憲 さん

現在、最短6年で若手社員を一人前に育てて独立させる取り組みを行っています。全国の水道工事店の将来の2代目、3代目を担う人が弊社で働いています。目標は全国に100人の卒業生を送り出すことです。

■住所: 神奈川県相模原市南区西大沼1-18-2 ■電話: 042-754-8181
 ■創業: 1973年1月 ■資本金: 5千万円 ■代表者: 代表取締役 小池 重憲
 ■従業員: 35名 ■事業内容: 給水工事、給湯工事、排水(下水道)工事、その他



精密加工技術がある限り、フィールドにとらわれる必要はない。

始まりは愛知県で古くから盛んだっからくり人形だった。「江戸時代のからくり技術は当時のハイテクでした。人形から時計へと、どんどん精密な歯車を作る技術が育まれてきました。この歯車技術が愛知時計電機のベースになっています」と教えてくれるのは生産本部の部長、原田高行さん。

精密加工技術はその時代の先端製品に求められていく。その歴史を原田さんは教えてくれる。「明治時代に海外から時計が入ってくると、歯車技術を活かして日本での生産に取り組みました。弊社の名前に『時計』という言葉が入っているのはその時代のなごりです。やがて大正から昭和の戦争の時代に入ると飛行機や戦闘機の生産も行うようになりました。実は日本で初めて乗用車を開発したのも、弊社を中心としたグループでした」

戦後になると愛知時計電機は軍需生産の事業に終止符を打った。焼け野原の中、注力したのが水道やガスのメーターの生産だった。戦後の日本のインフラ整備の役に立ちたいという思いからだったという。そして愛知時計電機はメーターにもさまざまな改良と改革を重ねていき、その過程で精密加工技術に加え、流体計測技術を身につけていく。「計ることを少しでも便利に的確に進化させたというのが我々の思いです。電磁力で水を計る電磁流量計や、超音波でガスを計る超音波

流量計などはそんな思いから生まれた技術です」と原田さんは言う。

現在の日本ではまだまだ昔ながらのアナログなメーターが採用されているが、海外へ目を移せば、流量計はアナログからデジタルへ確実に移行している。「現在の日本の場合、水道メーターのスマート化にはまだ対応できていませんが、将来、必ず必要になります。そのときに対応できる流量計をきちんと用意しておく。時代が我々の商品を探るときがきっと訪れます」と原田さんは笑顔で言った。



愛知時計電機株式会社

生産本部 水機器製造部部長

原田 高行さん

弊社には電磁流量計や超音波流量計を海外で展開させようという動きがあります。もともとは流量計の製品も技術も、明治時代に海外から入ってきたのですが、現代になると逆に海外へ輸出できることには感慨深いものがありますね。

■住所:名古屋市熱田区千年1-2-70 ■電話:052-661-5151

■創業:1898年7月 ■資本金:32億1千8百万円

■代表者:代表取締役会長 神田 廣一 代表取締役社長 星加 俊之

■従業員:1,882名(連結) ■事業内容:ガス関連機器、水道関連機器、民需センサーシステム、計装、特機等の製造、販売、その他

時計、 飛行機の技術を、 メーターへ。



147

SEDIA SMILE STORY

愛知時計電機株式会社



頼りにされる 技と質。



断らない。完遂できる方法を探る。それが柴田電機製作所の流儀。

「先代が創業したときはモーターの修理から始まりました。それが制御盤やキュービクルの製造へと広がっていきました」と教えてくれるのは代表取締役の柴田邦博さん。規模は大きいとはいえないが、その分、細部にまで職人の技と目が行き届く作り込みが行われている。

そんな確かな技術が評判を呼んだ。これはできるか？この修理はどうだ、そんな問い合わせが相次いでいく。丁寧に応えていくことで信用がつき、仕事の幅が広がった。「断りません。完遂できる方法を探ります。手間や時間がかかろうと、たとえ金額に合わないとしても、声をかけていただいたのですから。試行錯誤の中では、失敗もありましたけどね」と柴田さんは笑う。

工場に納品前のモーターがあった。オーバーホールの依頼物件だ。「分解して、点検して、ベアリングなど摩耗している部品があれば取り替えて、部品の汚れは一つひとつ清掃して、組み立てて、表面を塗装して、ほぼ新品の状態で納品します。きっちり手入れをすれば、長年にわたってがんばってくれるんですよ、日本のモーターは」と、最終の点検作業をしている職人が言った。

小さな工場だから大きなものや大量の製品を作ることはできない。

しかしどんな依頼にも丁寧に、前向きに仕事を積み重ねていく。だから日本中に名を知られているメーカーの工場から製造や修理の依頼が寄せられる。大きな工場からも頼りにされる技と質。柴田電機製作所の何よりの強みだろう。



株式会社柴田電機製作所

代表取締役

柴田 邦博さん

小さな会社ですから、時代の影響はないといえ嘘になります。ただ、小手先の変化で対応できるほど世の中は甘くないので、大切なものは根本だと思います。期待に応えられる技術力。それを磨き続けるのが、生き残る秘訣ではないでしょうか。

- 住所:名古屋市中川区中京南通2-22 ■電話:052-353-3802
- 創業:1972年12月 ■資本金:1千万円
- 代表者:取締役会長 柴田 金壽 代表取締役 柴田 邦博
- 従業員:14名 ■事業内容:各種電機機械修理販売、制御盤製作及び自動制御回路設計製作、高圧及び低圧各種電気工事設計施工、キュービクル製作・販売、置き新品・中古整備品販売、その他



148

SEDIA SMILE STORY

株式会社柴田電機製作所

再スタート。 マイナスからの 噴火災害、 雲仙普賢岳の

149

SEDIA SMILE STORY

吉田菊園

災害を乗り越え、進化を取り入れて、売り上げ1億円を超える。

吉田さんの一日は、グリーンハウス内のパソコン画面を確認することから始まる。「温度、湿度、CO₂、日射量を制御するシステムをすべてのハウスに導入しています。導入後の収穫量は120%以上に上がっています」と吉田さんは笑う。

現在、吉田菊園は4,585坪もの栽培面積を有し、年間生産量は140万本、年商は1億円を超える。平成23年には長崎県民表彰、第40回日本農業賞大賞を受賞。長崎県花き振興協議会の会長も務めている。しかしここに至る道は平坦ではなかった。最大の危機は平成3年の雲仙普賢岳の大規模噴火災害。「大火砕流で家もハウスもすべて

を失いました。残ったのは家族と車と借金だけ」と吉田さんは当時のことを振り返る。このまま農家を続けるか、勤めにできるか大きな分岐点もあった。「両親は安定した企業に勤めることを願いましたが、私はもう一度、菊で立て直したかったです。しかし失ったハウスの借入れが2,000万円ほど残っていました。再スタートのためには新たな設備投資が必要です。正直、迷いました」

吉田さんが選んだのは再スタートの道。新たな借入れと合わせて7,000万円を背負っての再起だった。「がむしゃらに働きました。生産性をあげることなら何でも取り入れました。それが今につながっているのでしょう。

若い人の意見にも積極的に耳を傾け、海外の研修生を受け入れるなど、いいと思ったことはどんどん取り入れています」と吉田さんは言う。

再スタートから5年、確かな手応えを感じると、その後5年で借入れは返済した。いまは生産性と効率化を重要視し、そのための設備投資を積極的に行い、生産量と売り上げを拡大している。「自分の技や勘だけに頼るのではなく、オープンに情報を交換しあって、最新の設備も取り入れる。人のモチベーションと最新制御システムとのハイブリッドが農業を確かなビジネスに変えると思います」と吉田さん。その言葉には、時代を乗り越え、次代に向かう力強さが感じられた。



吉田菊園
吉田 良一さん

農家になって約35年。振り向きことは嫌いで、前だけを向いて働いてきました。農家の勤から、データによる管理へと農業も進化しています。今、その進化を目の当たりにしています。農業の生産性はどんどん上がると思います。

■住所：長崎県雲仙市吾妻町木場名371-1 ■栽培作物：菊

第2章

SEDIA SMILEBOOK
The 2nd Chapter

開拓・開発の一步先、 技術が いかに時代に 応えたか。

常に化する時代の波—。
寄せては返す時代の要望に、人や企業の技術と製品は
いかにして応えたのだろうか？その軌跡は、
次の時代へ向かう私たちへの
大いなるヒントになる。



神社仏閣の技が、 先端デザインに 応える。

建築家の最先端のデザインに、
職人技が活かせる場を発見。

創業は1882年。京都を中心に、社寺、数寄屋、伝統建築物を数多く手がけているのがニカク工務店。お客さまには祇園や先斗町のお茶屋も多く、夏の風物詩、鴨川の川床の大半も、毎年、設置と撤去を担当している。しかし、と4代目の代表取締役、二角康和さんは言う。「伝統や歴史に甘えてはいけません。確かな職人技を活かせる場を開拓しなければ、受け継ぐことも伝えることもできません」

そして始めた新しい取り組みのひとつが「ASJ（アーキテツ・スタジオ・ジャパン）」への参加。「これは設計能力の高い建築家と施工能力の高い工務店の全国組織。ハウスメーカーとはひと味違う、建築家ならではの意匠性の高い住まいづくりをトータルにサポートするのが売りです。京都の工務店として弊社は参加しています」と二角さんは教えてくれる。

今回、取材で訪れた現場も、建築家の設計による木造住宅。細部にわたってこだわる建築家のデザインに応えるために、職人はカンナをひき、ノミで削り、差し金で測る。「建築家の要望はミリ単位。それに応えることができる職人が少なくなっているのは発見でした。弊社は社寺や日本家屋を造ってきましたから、カンナやノミが使えるのは当たり前。建築家は細部にまでこだわりますが、それに応える職人技が弊社にはあったのです」と二角さんは笑顔で言う。

「企業も伝統も守るためには、新しいことを開拓する攻めの姿勢が不可欠です。職人を雇うということは、技を活かせる場を創り出すことでもあると考えています」と二角さん。最先端の建築デザインにこそ、伝統の職人技を活かせる場があったのだ。

株式会社ニカク工務店

代表取締役

二角 康和 さん

経験とノウハウは大切です。しかしそれに甘んじていけば時代に応えることはできません。経験とノウハウを活かせる新しい道を探し、切り拓いていくこと。伝統とは挑戦の繰り返しから生まれるものかもしれません。



■住所：京都市山科区日ノ岡坂脇町10-34 ■電話：075-592-3225
■創業：1882年3月 ■資本金：1千万円 ■代表者：代表取締役 二角 康和
■従業員：12名 ■事業内容：建築設計施工ならびに監理、その他



150

SEDIA SMILE STORY

株式会社ニカク工務店

工事はまわりの迷惑である、
それを前提に仕事を進める。

「我が社は建設業であると同時にサービス業なのです」と代表取締役社長の佐藤好孝さんは言った。1925年創業の風間建設工業所は、地元の関係者でその名前を知らない人はいない、地域を代表する企業。しかし風間建設工業所にはそんな誇りは微塵もない。毎日、早朝に、会社の周辺を掃除して回る。雨が激しい夜は道路の冠水に備えて数人の社員が待機する。工事中、終了後の清掃はもちろん、月に1度、「安全パトロール」と称して女性社員が現場を見て回る。「職人の視点ではなく、一般の女性の視点で現場を見て、通行人にとって迷惑なこと、危ないことがないかをチェックするためです」と佐藤さんは教えてくれる。

また、ユニークなのが、毎年「経営計画書・年次行動計画書」を作成して、社員のみならず顧客や協力会社に配っていること。理念の他に、その年の経営目標、工事の安全や環境に対する指針、年間の行動スケジュールが明記されている。「きちんと表明することで社員の行動に責任をとらな

せざるためです。いい技術があってもお客さまや協力企業に相手にされなくなった企業は続きませんから」と佐藤さんは言う。

風間建設工業所の仕事にはひとつの前提があるという。「建設という仕事は、まわりの人にとって迷惑なもの」と佐藤さんは言い切る。渋滞が発生すればドライバーはイライラするし、子どもたちは耳をふさいで通り過ぎる。だから速く、的確に行うことはもちろん、安心、安全、整理、清掃は徹底して、地域のためにできる限りのことを行うのだ。創業90年を超えても地域を代表する企業であり続ける秘訣はそんなところにあるのだろう。



創業90年の学び。 工事は、 サービス業である。



151

SEDIA SMILE STORY

株式会社風間建設工業所



株式会社風間建設工業所

代表取締役

佐藤 好孝さん

企業の前に社員のために。社員の前に顧客と地域のために。そんな考えで1日1日、仕事を積み重ねています。顧客満足には終わりも方程式もありませんが、常にそれをめざして1日を積み重ねる。それが弊社のスタイルです。

■住所: 千葉県船橋市湊町2-12-3 ■電話: 047-434-2125 ■創業: 1925年4月
■資本金: 1千5百万円
■代表者: 代表取締役CEO 風間 新太郎 代表取締役社長 佐藤 好孝
■従業員: 27名 ■事業内容: 土木工事、舗装工事、その他

去年の栽培方法が通じない。
毎年最適な方法を探す。
それが一番の醍醐味。

「石川園芸もりおか」では2002年に1,600坪のグリーンハウスを建設。2017年には2,000坪のハウスを建てた。栽培するのはゆり。2棟合せて年間で約55万本を出荷している。「傍から見れば順調に映るようですが、現実はずれています。毎年、改善の連続です」と代表取締役の石川正樹さんは言う。

石川さんがゆりの栽培に目をつけたのは、学生時代の農家先での研修のとき。そこがゆりを栽培していて、学ぶうちに少人数で通年栽培が行える作物とわかったからだ。夏も涼しい盛岡なら夏場にも作付けを行うことができる。「しかしゆりは品種開発が盛んな作物だったのです。去年まで出回っていた球根がなくなって新しいものが出回る。品種の新陳代謝が活発です。一口にゆりといっても、私のところでは40種類以上を栽培しています」と石川さんは教えてくれ、こう続けた。「新しい品種には、その品種に合った栽培方法を探さなければなりません。つまり去年の栽培方法が今年も通用するとは限らないのです」

品種が新しくなると、それは寒さに強いのか弱いのかを見極め、最適な環境を探り、収穫後もどれくらい日持ちするかを確かめた上で、その品種の栽培方法が見えてくる。極端な話、品種ごとに栽培マニュアルが異なるわけで、品種が変わるたびに新しい栽培マニュアルを発見しなければならないのだ。ここが難しいところであるけれど、逆に醍醐味でもあり、ビジネスチャンスにもなると石川さんは言う。「いろいろな品種をデリケートに育てることは手間暇のかかることですが、それができると品質は安定します。それを大量に出荷できるとしたら市場の信頼を得ることができます。ゆりの球根は毎年改良され、進化するということは、それに応じて私たちの栽培方法も改善して進化していくというわけで、つまり私たちはゆり栽培の最前線にいるといえる言い過ぎでしょうか」と石川さんは笑う。ゆり栽培の進化の最前線で働いている。確かにそれ以上の醍醐味はないかもしれない。



有限会社石川園芸もりおか
代表取締役
石川 正樹 さん

大規模栽培を展開する上でグリーンハウスや制御システムの進化はありがたいですね。光熱費の削減など、最新の設備機器がなければできないこと。ゆりの進化に応えるには、グリーンハウスや制御システムの進化も不可欠なのです。

■住所:岩手県盛岡市東中野見石112 ■電話:019-623-3778 ■創業:2001年5月
■資本金:300万円 ■代表者:代表取締役 石川 正樹 ■栽培作物:ゆり

ゆりは毎年、
新種が生まれる。
ここが進化の
最前線になる。

152

SEDIA SMILE STORY

有限会社石川園芸もりおか



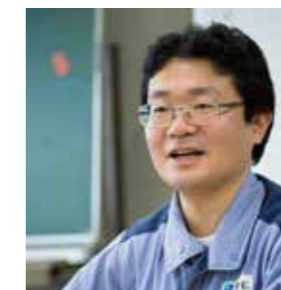
日々の作り込みから生まれる 1品1様の製鉄品質。

JFEスチールの粗鋼生産量は日本で2番目、世界でもトップ10内にランキングされている。年間の生産量が約3千万トン。「ご覧の通りの巨大な工場で、ダイナミックな仕事と思われがちですが、実は緻密な技術が要求される仕事なのです」と教えてくれるのは、京浜地区製鋼部製鋼工場長の上野智之さん。「鉄鉱石を高炉で銑鉄にして、それを転炉へ移し、炭素などの不純物を除きます。炭素が約2%を超えると硬いけれどもろい鑄鉄となり、以下だと非常に強度のある鋼になります。鉄を何に、あるいはどこに使うか、用途の数だけ、求められる品質は異なります。それに応えるのが、この転炉の工程。炭素の割合や他の成分の含有量を調整して求められる品質の鉄にするのです」

現在の製鉄技術は40年ほど前に確立されたが、お客さまのニーズに応える作り込みは年々緻密になっていると上野さんは言う。「『1品1様』が私たちの基本です。転炉作業は1日に40～50回行われますが、納品するお客さまの仕様を基に、毎回、調合や配合を変えます。ある意味、数字との戦いでもあるのです」

しかしデータ通りにすればいいわけでもないと言葉は付け加える。「高炉からの銑鉄は、品質が常に一定しているわけではありません。データを基に、転炉で調合や配合をしても、前回と同じものには仕上がらないのです。その日の状態を見極めてさらなる調整が必要になるのです。それはシステムでは無理なこと。人の目と腕でしかできません」

JFEスチールには「鉄は生きている」という言葉があるという。鉄は生き物、毎日異なる。だからマニュアルにただ従うだけでは安定した品質を確保することはできない。それを見極める技術者の目と、調整する腕があって初めて「1品1様」の製品が仕上がるのだ。



JFEスチール株式会社

京浜地区製鋼部製鋼工場長
上野 智之 さん

弊社には「JFEグループは常に世界最高の技術をもって社会に貢献する」という理念があります。そのためには技術を世界最高まで高めること、そして最高の技術を次の世代へ継承すること、その2つを同時に行うことが重要と考えています。

■住所:東京都千代田区内幸町2-2-3 ■電話:03-3597-3111 ■設立:2003年4月
■資本金:2,396億円 ■代表者:代表取締役社長 柿本 厚司
■従業員:44,395名(連結) ■事業内容:鉄鋼製品・半製品、鋼材加工製品、鉱業、その他

毎日、 状態は異なる。 鉄は生きている。

153

SEDIA SMILE STORY

JFEスチール株式会社

第3章

SEDIA SMILEBOOK
The 3rd Chapter

住まいと農業、 その進化の 最前線へ。

留まることを知らない進化—。

生活インフラの未来のために、住まいと農業の最前線では、
どんなことが起こっているだろうか？

いかにして最前線へ挑んでいるのだろうか？





美しさと強さの融合をさらに極めると、
ホーローは高品位ホーローになる。

「ホーローの歴史は紀元前に遡ります。ツタンカーメンの仮面にも使われているのです」とタカラスタンダード福岡工場の工場長、岡本さんは話してくれる。タカラスタンダードはホーロー製品の生産を始めてから100年以上。代名詞ともいえるホーローキッチン^{ゆうやく}の生産は40年を超える。

ホーローとは金属に釉薬^{ゆうやく}（ガラス質のフリットに顔料を混合した液状のもの）を吹き付け、高温で焼き付けた素材。鉄の強さとガラスの美しさを兼ね備えている。また、それは鉄の大敵である錆も、ガラスのウイークポイントであるもろさもない、異なる素材の見事なコラボレーションだ。「タカラスタンダードのホーローは各生産工程で改良を行い、また、デザイン面でも多彩な柄付けを可能にする事で進化を重ねてきました。従来のホーローと差別化するためにも、現在では高品位ホーローと呼んでいます」と岡本さんは言う。

特長は大きく2つあるという。まずは、釉薬^{ゆうやく}を吹き付ける前の工程で鉄板に十分な前処理を行うこと。「脱脂、酸洗、ニッケル処理、中和という4つの工程を経て、油分を除去し、密着度を高めるために表面に微細な凹凸を施し、ニッケルを付着させて、錆を防ぐために残留する酸を中和させます。この工程を怠ると美しさも強さも引き出すことはできません」。そしてもうひとつは釉薬^{ゆうやく}の調合と焼成。「使う用途によって調合を変えるのはもちろん、温湿度の変化においても調合の微調整を行っています。良好な状態に前処理された鉄板に釉薬^{ゆうやく}を吹き付ける。そして、この状態の物を高温で焼き付けると鉄板と釉薬^{ゆうやく}ががっちり合体。だから強度の高いホーローに仕上がるのです」と岡本さんは説明する。

鉄板の前処理も、釉薬^{ゆうやく}の調合も一朝一夕に確立したわけではない。一見、お馴染みの姿に見えるけれど、その裏には課題の発見と、その改善と改良の繰り返しがあった。タカラスタンダードの製品が時代を超えて求められる理由もきっとそこにある。

154

SEDIA SMILE STORY

タカラスタンダード株式会社

時代が求める 高品位 ホーローを。



タカラスタンダード株式会社
福岡工場工場長
岡本 淳さん

キッチンやバスから建材まで、美しく、しかも強いというホーローの特長がいろいろところで活かされています。それに応える生産体制を整えることも私たちの次代への取り組みのひとつです。

■住所: 大阪市城東区鳴野東1-2-1 ■電話: 06-6962-1531 ■創業: 1912年5月
■資本金: 263億5千6百万円 ■代表者: 代表取締役社長 渡辺 岳夫
■従業員: 6,067名 ■事業内容: ホーローシステムキッチン、木製システムキッチン、システムバス、ホーロー洗面化粧台など、総合住宅設備機器の製造販売、その他



現場を学校に、
人を育てるから、
続く。

155

SEDIA SMILE STORY

株式会社小川商店



営業、工事、そして監督。 現場を学校に職人を成長させていく。

小川商店の創業は1916年。「大正5年に荒物屋として始まりました。やがて自宅用ランプを扱うようになって、油からプロパンガスも販売するようになると、やがて製品の付帯工事の必要が出てきて、そうこうするうちに工事が主力になったというわけです。入り口にたばこの販売窓口があるのは商店時代のなごりです」と代表取締役の小川和義さんは教えてくれる。1952年に法人化。以後は地元密着型の水道とガスの工事店として現在に至る。

商店からスタートしたからだろうか、小川商店の特長は家族的であることだ。「良いも悪いも家族的、それが先代、先々代からの社風ですね。私も変えるつもりはありません。社員は子どものように思っているのも厳しいとも言いますが、願っているのは一人ひとりの成長です」と小川さんは笑顔で言う。そして現場を成長の場に活用しているという。「社内には60代、50代、40代のベテランがいます。彼らが教師。その下で20代、30代の社員が現場で学んでいくのです」

クライアントの接客折衝、給排水工事の技術、そして現場の監督としての管理と調整。それらをこなせるようになって一人前という考えが小川商店にはある。「若い社員にはそのすべてを担当させます。ある現場では営業、ある現場では穴掘り、ある現場では監督という具合に。不安はありますが、若い力を信じて任せなければ成長は望めません。その際の教師代わりになるのが年長のベテラン。職人の不足が叫ばれていますが、あらゆる世代の職人がいることは、我が社の財産だと思っています」と小川さんは笑う。

そんなお話を伺っていると、続く理由が見えてくる。人がいるから続くのだ。そして人を成長させるから、仕事も工事も進化していくのだ。そう、進化の最前線とは、きっと人の中にあるものなのだろう。



株式会社小川商店

代表取締役

小川 和義さん

現場では何が起るかわかりません。図面ではわからないことがあり、予定通りに進まないことがあります。それでも決められた納期までに仕上げる。そのためには臨機応変な現場力が必要。それを鍛える所は現場しかありません。

■住所:埼玉県鴻巣市本町7-6-2 ■電話:048-541-0126 ■創業:1916年5月
■資本金:2千万円 ■代表者:代表取締役 小川 和義 ■従業員:18名
■事業内容:給排水衛生設備工事、管工事及び土木舗装工事、LPガス及び都市ガス配管工事、その他



選ぶ理由。 現場を 難度の高い

156

SEDIA SMILE STORY

株式会社高原設備工務店

身についた技術は一生ものの宝になる。

高原設備工務店は創業約70年。「戦後、祖父がリヤカーに部品を積んで、広島市内の水道工事を手がけたのが始まりです。現在は6割以上が設備工事になりました。私の代になってからの変化です」と3代目となる代表取締役の高原さんは教えてくれる。

高原設備工務店の手がける現場にはある特徴がある。マンションやオフィスビルよりも病院や博物館や記念館などの物件が多いことだ。「どれも先進の制御システムが必要とされる面倒な物件ですよ」とその理由を高原さんはこう言う。「人の命に関わる建物や大切な文化遺産のための建物はささいなミスも許されません。求められる品質は高い。かといって納期にも予算にも余裕があるわけではありません。どの工事店でもできれば避けたいと思う物件じゃないでしょうか」と高原さんは言う。ではなぜ引き受けるのだろう?「私が技術系の人間だったことがひとつ。だけど一番大きい理由は、仕事を通して社員の技量が向上していくことです」と高原さんは言う。

病院や博物館などの制御システムは日進月歩で進化している。仕様も変わる。応えるには研鑽が不可欠だ。そんな厳しい現場をやり遂げると社員の技術は確実に上がる。それは社員の成長につながり、さらに会社の強みになる。高原さんは社員にそう説いて難度の高い物件に取り組んだ。振り返るとミスもあったし、うまくいかないこともあった。しかしその度ここを乗り越えた先には、技術という財産があると考えて、みんなで乗り切ったという。「お金は貯まっても浪費してしまえばなくなります。身についた技術は一生ものですから」と高原さんは笑う。

今では「この物件は高原設備工務店で」と声がかかる。難しい依頼が来ると社員からやりましょうと声が上がると。それこそ現場の進化に応える、高原設備工務店の強みである。



株式会社高原設備工務店

代表取締役
高原 豊明さん

社員の成長が、我が社の宝です。数々の現場で鍛えられてきたので、みんな頼もしくなりました。技術的にも品質的にも高いものが求められます。応え続けることができる企業でありたいですね。

■住所: 広島県広島市西区横川町2-16-15 ■電話: 082-231-2161 ■創業: 1945年5月
■資本金: 2千9百万円 ■代表者: 代表取締役 高原 豊明
■従業員: 17名 ■事業内容: 給排水工事、設備工事、その他



農業の最前線へ。 可能性と 手応えを 感じながら。

157

SEDIA SMILE STORY

株式会社VERY BERRY



めざすのは、営利もしっかり見据えた、 ビジネスとしての農業。

千本さんは輸入衣料販売会社の役員。品川さんは印刷会社の役員。同級生のふたりがタッグを組んで起業したのが「株式会社VERY BERRY」。まったくの異業種である農業への挑戦だった。「品川がいちごの栽培をすると聞いて、当初はお手伝い気分だったのですが、栽培の研修などを一緒に受ける過程で私もどんどんその気になって、2017年に一緒に起業したのです」と千本さんは教えてくれる。

栽培する土地探しから始まり、ハウスを建設し、最新の設備機器も導入した。栽培品種はとちおとめ。「めざすのは10アール当たり6トンの収穫です。しかも糖度は13度以上で。そのための栽培規模と設備は整えました」と千本さんは笑顔で言う。

しかしここで頭をよぎるのが、新しい挑戦が、なぜ、まったくの異業種の農業なのかということ。「作ること。流通させること。ブランドにしていこう。私がかかっていたアパレルビジネスでは一連の流れとして考えますが、農業ではそこまで取り組んでいる方は少ないので、作物をしっかり作る一方で流通に関してもしっかり取り組みれば大きな可能性があるフィールドだと思ったからです」と千本さんは言う。

いちごは順調に育っている。いただくに驚くほど甘い。栽培に関しては、滑り出しは順調のようだ。しかし出荷作業に忙しい品川さんは言う。「人手の確保とか課題は山積みです。栽培に関しては、発見がいろいろあって、毎日が勉強。軌道に乗せるにはまだまだ時間はかかるとは思います、やりがいはありますね」。

創業100年を超す老舗企業も、大きな志を抱くところからスタートした。市場のニーズに千本さんと品川さんたちが応え、どのようにブランドを育てていくのか、これからの活躍を期待したい。



株式会社VERY BERRY

代表取締役 千本 英世 さん(右)

取締役 品川 智佳子 さん(左)

「渡辺パイプにはとてもお世話になっています。制御システムの相談にも乗ってもらって、異業種からの参入組にとっては心強い限り。これからもよろしくお願ひします」と千本さんも品川さんも素敵な笑顔を見せられました。

■住所: 神奈川県平塚市片岡630-1 ■創業: 2017年3月 ■資本金: 500万円
■代表者: 代表取締役 千本 英世 ■栽培作物: いちご



セディアグループの 社会貢献への 取り組み。

人々の暮らしのために、地域の皆さまと共に笑顔。
そのための社会貢献活動を行っています。

「笑顔は、答えだ」とセディアグループは考えています。

何かを行っているときも、これから行おうとするときも、
そこに笑顔が広がるかどうかを考えます。

CSRとは「Corporate Social Responsibility」、

日本語では「企業の社会的責任」と訳されていますが、

社会の笑顔を広げることこそ、セディアグループの社会貢献活動。

さまざまな人と、さまざまな場所で、未来を笑顔にする取り組みをしています。

セディアグループの活動の一部をご紹介します。



● 地域

全国各地にサービスセンターやグループ企業を持つセディアグループ。その全国ネットワーク力を地域のお客さまにお届けすることはもちろん、地域の人々へ笑顔を広げる取り組みも展開しています。

● パートナー

セディアグループは、お客さま、そしてメーカーさまを、共に生活インフラへ貢献する、マーケティングパートナーと考え、エンドユーザーさまの暮らしの笑顔を広げる取り組みを展開しています。

● 社員(人材)

いつの時代も企業は人。社員のしあわせが、企業のしあわせであり、社員の成長があるから企業も成長できるのです。だからこそセディアグループは、社員の成長を考慮する取り組みを大切にしています。

地域の
皆さまと共に。

お客さまを
支えるパートナー。

流通ネットワーク
No.1の
セディアグループ。





たとえば中学生の体験学習や美術館の共同創設など。
地域の人々との活動を積極的に展開しています。

地域の皆さまと共に。 人々の笑顔を広げる。



セディアグループのスマイルウォーターです。



「すみだ北斎美術館」

仕事を学ぶ。中学生体験学習を受け入れ。

●体験学習をもっと。

「仕事に対してどのような思いをもって取り組んでいるのか?」という学びの場として、札幌西サービスセンターや名古屋の明興電機などで中学生の職場体験学習が行われました。仕事の見学や1日の仕事の流れについての講習を受けた後は、実際に商品の荷揃えや配送なども体験。普段はなかなか知ることができない流通の現場を学びました。



自然災害への支援、たとえばセディアスマイルウォーターもそのひとつ。

●生活インフラを守る。

大きな自然災害の後、生活インフラの復旧は何より重要です。セディアグループも商品の供給などを通して全力で取り組みます。例えば、災害の後には、被災された方の水の確保も大切。セディアグループはお客さまや現場で働く方へ大量のセディアスマイルウォーターを配布する活動も積極的に行っています。



創業の地に、すみだ北斎美術館を共同創設。

●文化を守る。

渡辺パイプの創業の地でもある東京都墨田区亀沢は、葛飾北斎の生誕の地でもあります。その地に誕生したのが「すみだ北斎美術館」。「富嶽三十六景」など、北斎の代表作はもちろん、さまざまな角度から北斎の魅力を紹介する展示も好評。セディアグループでは、地域の方ももちろん、国内、世界の方へ歴史と文化を発信するため、共同創設者というカタチで地域を応援しています。



若いチカラと地域のスポーツを応援。

●心と身体の健康のために。

スポーツ振興を通して、地域の人々の健康な暮らしを応援したい。セディアグループではそんな想いから、千葉県鴨川市に拠点を置く「オルカ鴨川FC」や、大阪府枚方市の「FC TIAMO枚方」などの地域のスポーツチームを応援しています。





お客さまとメーカーさまをつなぐ。一緒に取り組む。
その先にある、エンドユーザーさまの笑顔のために。
人々の暮らしのために。

パートナーと共に。 暮らしの安心・ 安全に取り組む。

生活インフラを守る緊急時の全国災害支援体制を。

●お客さまへ、災害時の商品供給支援を。

どんなことが起こっても、生活インフラはとぎれてはいけません。とぎれたら迅速につなげなければなりません。そのためにはどのような状況でも工事に必要な資材を届けることが必要です。セディアグループはそんな想いから全国管工事業協同組合連合会と「災害時における復旧活動の応援協力に係わる覚書」を締結。震災等の発生時にライフライン復旧のための資材供給を円滑に行うことを目的に、全国の管工事組合とともに、早期に災害復旧ができる協力体制を築いています。



「ライフライン・ネット」、メーカー6社と緊急時の資材供給システムを構築しています。

●メーカーさまと、災害時の商品供給支援を。

災害時はその復旧のための資材を届けることは何より重要です。セディアグループはそのため、メーカー6社と緊急時の強固な資材供給体制を整えています。それが「ライフライン・ネット」。大災害が発生するとセディアグループに置かれた対策本部からメーカーへ復旧資材の確保と配送を連絡。全国管工事業協同組合連合会と協力しながら、届けられた資材をセディアグループが現場へ配送。セディアグループの全国ネットワークに加え、メーカーと連携して資材を被災地へ集中させ、素早く効率的に供給していきます。



セディアグループのすべての取り組みは、暮らしの笑顔を広げるため。

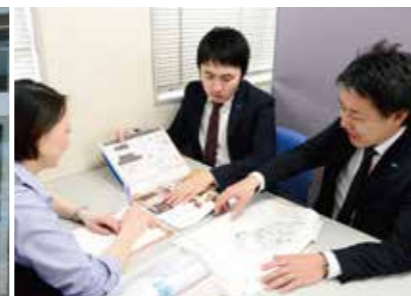
●人々の暮らしのために。

セディアグループはパートナーとのさまざまな取り組みのその先に、エンドユーザーさまの笑顔を見つめています。セディアグループの日々の取り組みも、災害時の取り組みも、それは確かな工事をバックアップすることで生活インフラの向上に貢献するため。エンドユーザーさまの、元気で快適な生環境へ貢献するためです。これからもエンドユーザーさまの暮らしをきっちり見据えて、生活インフラの向上のために、パートナーと共に取り組んでいきます。



人も、企業も、共に成長するために、
さまざまな取り組みを、もっと!

お客さまと共に。 私たちの働き甲斐を広げる。



自己啓発の取り組みを積極的に。

● 学習する風土づくりを、積極的に。

セディアグループは社員の自己啓発活動を積極的に応援。昇進昇格の際には通信教育を必須条件にしたり、通信教育の推奨や援助などを行っています。学習する風土づくりを積極的に取り組んでいる企業を表彰する「JMAM通信教育優秀企業賞」を受賞したこともあります。



エンジニアリングを高める研修も。

● お客さまの期待を超えるエンジニアリング力を。

社員の成長が企業の成長につながります。新入社員研修、新所長研修、次世代幹部候補研修など、ステップアップの節目に行う研修はもちろん、空調営業技術研修、システムバス・ユニットバス現調研修、ハウス建て方研修など、スペシャリストとしてのエンジニアリング力を高める研修も行っています。



いっしょに水について、生活インフラについて考える。

● すべては生活インフラのために。

セディアグループは毎年、水の日である8月1日に「WATER WORKS～水の働き～」を発行。すべての命の源である水について、さまざまな角度から特集した1冊。お客さまだけでなく社員にも配布して、セディアグループの原点でもある水への意識を高めています。



チャレンジする精神こそ、セディアグループのDNAです。

● さまざまなチャレンジを応援。

フロンティアスピリットこそセディアグループのDNA。社員には仕事以外にもいろいろなことに挑戦してほしい、そんな願いから「チャレンジセディアカップ」を開催しています。社員から挑みたい夢を募集して、選ばれた社員にはその実現への資金を援助するというもの。社員の皆でスポーツを楽しみたい。富士山へ登りたい。これまでさまざまな夢を応援しています。



心と身体づくりのひとつとして、マラソン大会への出場をサポート。

● 日々の健康づくりを大切に。

健全な精神は健康な肉体からと言われます。いい仕事も健康やかで健康な身体があつてこそ。セディアグループでは、全国で開催されるマラソン大会へ社員がエントリーしたら、その参加費を負担。社員のスポーツへの意欲アップによる健康づくりを応援しています。





笑顔を広げる 取り組み、 続く。

元気で快適な明日のために。

Smile
SEIDIA ESTABLISHED IN 1992
SEIDIA SMILE
PROJECT
次へ。



SEIDIA セディアCSRアクティブレポート 2018

SMILEBOOK Vol.12

本レポートについてのお問い合わせは、経営企画室 広報グループまで。TEL. 03-3549-3076 FAX. 03-5565-6374

社名 渡辺パイプ株式会社
本社 〒104-0045 東京都中央区築地5-6-10
浜離宮パークサイドプレイス6F
創業 1953年12月8日
代表者 代表取締役社長 渡辺 元
資本金 100億9,918万4,000円
年商 2,720億円(グループ売上:2018年3月期予定)
従業員数 4,680名(グループ全体:2018年4月1日)
業務内容

【管工機材の販売】
水道機材、衛生器具、給排水金具、配管材料、他
【住宅設備機器の販売】
空調機器、浄化槽、厨房機器、給湯機器、建材、他
【電設資材の販売】
電気工事材料、電線、照明器具、他
【温室の設計・施工、販売】
各種温室の設計・施工、各種グリーンハウス及び部品・資材、
各種被覆資材、灌水装置、自動カーテン装置、天窓・側窓開閉装置、
冷暖房装置、温室環境制御装置、養液栽培システム、他

グループ会社

| | |
|-----------------|--|
| 渡辺パイプ西日本株式会社 | 株式会社セディアトランスポート |
| 渡辺パイプ沖縄株式会社 | 株式会社エドビ |
| 株式会社ツギテの三共 | 協伸株式会社 |
| 三興電材株式会社 | 西日本グリーン販売株式会社 |
| キザイ産業株式会社 | Watanabe Pipe Vietnam Co., Ltd. (WPVN) |
| 梅津管材株式会社 | 株式会社セディア総合研究所 |
| ヤナギ管材株式会社 | げんきビジネスサポート株式会社 |
| 昭栄商事株式会社 | 株式会社セディアビーエス |
| 明興電機株式会社 | 株式会社アサマリゾート |
| 千成産業株式会社 | NPO法人浅間山麓国際自然学校 |
| 株式会社大成商会 | 公益財団法人セディア財団 |
| 平和テクノ株式会社 | |
| クサノ電材株式会社 | |
| 台湾渡邊建材股份有限公司 | |
| 株式会社WATER WORKS | |
| 株式会社ワークサポート | |
| パイプシステム工業株式会社 | |